



菅波茂代表は一九七九年のカンボジア難民の際、救援に駆け付けたが何もできなかったことからAMDAを創設した。理想と現実。十二年間の歩みと、将来への夢を代表に聞いた。

——なぜ南アに共同事務所を開いたのか  
「アフリカでは貧困対策、つまり経済対策が一番大切。今アフリカで経済が向上する可能性が最も高いのが南ア。南アは南部アフリ

◀「顔の見える国際貢献を充実させたい」と話す菅波代表

- (AMDA活動表)
- 84年 8月 AMDA設立
  - 91年 4月 AMDA国際医療情報センター(東京)設立
  - 92年 3月 イラン・クルド難民救援  
ピナツポ火山噴火被災民支援  
バングラデシュ・ミャンマー難民救援  
エチオピア・チグレイ州難民救援
  - 7月 カンボジア本国帰還難民救援
  - 93年 1月 ソマリア難民救援
  - 12月 AMDA国際医療情報センター関西設立
  - 94年 2月 スマトラ島南部地震救援
  - 4月 東京オフィス開設
  - 5月 ルワンダ難民救援
  - 6月 日本緊急救援NGOグループとして旧ユーゴスラビア援助
  - 10月 94おかやま国際貢献NGOサミット開催、INNEED設立
  - 12月 ケニア・ナイロビ地域オフィス開設
  - 95年 1月 阪神大震災緊急救援
  - 5月 サハリン大震災救援
  - 6月 国連NGO(カテゴリーⅡ)に認定
  - 9月 菅波代表が第二回国連プロトス・ガリ賞受賞
  - 朝鮮民主主義人民共和国緊急救援
  - 10月 APRO発足
  - 12月 アジア多国籍医師団設立
  - 96年 1月 ボスニア難民被災民救援
  - 2月 中国雲南省大地震緊急救援
  - 4月 レバノン被災民救援
  - 5月 バングラデシュサイクロン救援
  - 11月 アフリカ多国籍医師団設立
  - 12月 南ア・プレトリア地域事務所開設

菅波茂代表に聞く

# 健康の敵 貧困こそ

力の中心ともいえず、周辺諸国への波及効果が期待できること、ヨハネスブルクには多くの飛行機路線があり、物資の補給や連絡、危機管理という後方支援体制をとるのに最適と考えた。

AMDAだけでは人材、資金両面で限界がある。BLIや労組の方の三者で連携すれば、今後教育や収益事業などで多くのプロジェクトができる。

——なぜ緊急医療だけでなく、開発援助に活動領域を広げるのか  
「日本人が人道援助をするわかりやすい理由は憲法が平和を志向していること

うこと。平和というのは単に戦争のない状態をさすのではない。世界共通の平和の概念は「今日の家族の生活。明日の家族の希望だ。それを阻害するのが、戦争、災害、貧困の三つ。貧困とは健康状態が悪いこと。健康水準の向上には、単なる技術移転や医療援助では限界がある。貧困問題を考えず健康はありえない。

貧困と健康を考える時、健康のための施設、食っていく収入を得ること、健康に関する知識を理解するための教育、は三ツセット。収益事業で、資金の回収率が落ちる最大の原因が災害と病気・死亡の二つ。ABCではこれに簡易診療所や生協の仕組みを取り入れた健康対策に総合的に取り組むたい」

——AMDAの将来像、今年の抱負は  
「目指しているのは欧米のNGOのように自己完結型ではなく、必要に応じて協力するネットワーク型のNGO。NGOの命はプロジェクト。地元のことば地元の人が一番よくわかっている。何もAMDAがすべて自分で手を広げる必要はなく、ローカルNGOの人の中からパートナーを決めてやるのが一番いい。

AMDAは国連認定NGOになったが、今は医療分野に限定されている。環境、教育、女性問題、収益事業という多様な分野でプロジェクトができれば、将来は経済社会理事会の会議で議決権を持つカテゴリーⅠへも昇格できる。

今年12月に世界で初めてNGOとしてPKOに参加する。昨年できたアフリカ多国籍医師団を充実させて、日本の顔の見える国際貢献としての緊急援助活動を強化したい。そのためにも人材の育成が急務で、大学設立に関する石井知事の公約に期待している」

## AMDA国際大学

養成を目指す「AMDA国際大学」の創設が計画されている。国連やNGOなど海外からも教職員を招き、世界の活動現場で実習して人材を養成する。

「世界が必要とする岡山」のシンボルとして「世界の人材が集まる国際貢献大学にしたい」と、県に協力を求めている「整備する」という石井知事の公約に期待を寄せている。

### 社会開発 14年目の挑戦